

## 企業理念

地域とともに  
お客さまのために  
「親切」の心で

## 目次

|              |    |                    |       |
|--------------|----|--------------------|-------|
| ごあいさつ        | 1  | 経営諸比率              | 33    |
| 平成22年度中間期の概要 | 2  | 営業の状況              | 35    |
| 経営・内部管理体制等   | 13 | 資本の状況・株主の状況        | 48    |
| 地域への取組み      | 18 | 中間連結決算             | 49    |
| 中間財務諸表等      | 26 | 自己資本の充実の状況等について    |       |
| 損益の状況        | 30 | 定量的な開示事項 <b>連結</b> | 58～66 |
|              |    | 定量的な開示事項 <b>単体</b> | 68～76 |

本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

(注) 1.本資料に掲載の諸計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ、表示しています。 2.構成比率は、100に調整しています。



ちば興銀は、次世代認定マーク  
を取得しています。



## ごあいさつ

皆さまには、平素より千葉興業銀行をお引き立て賜り、誠にありがとうございます。ちば興銀について深くご理解いただけますよう「2010中間期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。

当行の経営方針、最近の業績、営業の内容などについて、できるだけわかりやすくご紹介することに努めました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

さて、昨年を振り返りますと、国内経済は、企業収益が改善し、個人消費も改善の動きが続くなど、自律的回復が期待できるようになる一方、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況となりました。先行きにつきましても海外景気の下振れ懸念や為替レートや株価の変動、またデフレの影響等、注視が必要な状況です。当行が営業基盤とする千葉県経済につきましては、“ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会”の開催や“千葉ロッテマリーンズ”の日本シリーズ優勝などの経済効果が期待されるなか、緩やかな持ち直しの動きが続きました。今後の動向については予断を許さない状況ではありますが、今年こそは、力強い回復を期待したいところです。

このような経済環境のなか、当行は、平成21年度・平成22年度に取組む中期経営ビジョン「Change & Challenge21」に基づく具体的戦略施策を積極的に展開し、「お客さまのマイバンク」を目指してまいりました。昨年度は期初より、従来の「エリア営業体制」を「店質区分別（グループ別）運営体制」に変更し、さまざまなお客さまニーズに鋭敏に対応できる営業体制のもと、これまで以上にお客さまとのリレーション強化・高品質な金融サービスのご提供に努めてまいりました。

平成23年度を迎える今年も、新たな中期経営ビジョンを掲げ、従来にも増して地域のお客さまのお役に立ち、多くのお客さまにマイバンクとしてご利用いただけるよう、当行グループの総力を結集して業務に邁進してまいります。

今後とも、より一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成23年1月

取締役頭取・CEO 青柳 俊一